

仙台復興住民とともに専門家らが討論会

東日本大震災で、野区南蒲生地区は4ヶ所を超えて離きながら新しい田舎暮らしへり高まつた」と語じた。

久根¹などの田園文化を受け仕事じたりといふ気持ちが離れてきた。中野春夫(の社会科教師ら約30人が耳を傾けた)。

門家が、まち再生の現状や今後の課題を解説。県内高校門家が、まち再生の現状や今後の課題を解説。県内高校

講演。仙台平野の原風景「居来、自分も復興活動に関わる

連携。仙台市立地理部会主催が14日、さいたま市浦和区の県立浦和

の3者は震災直後から密接に1年の入江旭さん(16)は「将

自治会や市、コ・サルタ、トの不安を解消するため、地元

に興味があつたじつ、同校勤務して、以前から災害救助

「仙台市復興まちの再生」(県高等学校社会科研究会地理部会主催)が14日、さいたま市浦和区の県立浦和

の不安を解消するため、地元

支援内容が異なる住民たち

が消防士、兄が自衛官どちらが、浦和高校の生徒達も参加。は、浦和高校の生徒達も参加。

移動再建の経験・教訓の共有、復興の取り組みについて考える。ネルティスカッジン震災から9年

手で30年かけて植えて育てる
「」の林、再生プロジェク
ト」を紹介。「復興活動
を通じて、市外の子供たち
にも震災の教訓と復興の記
憶を伝えていきたい」と語る

専門家らが討論会

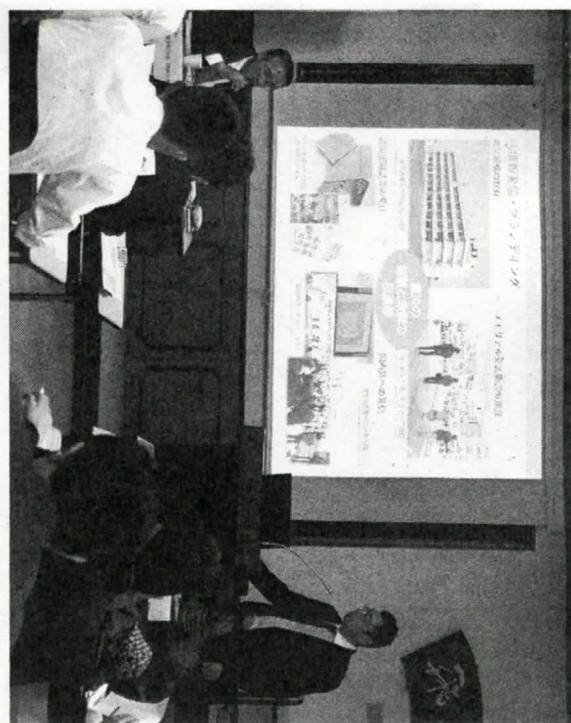
仙台復興住民モーテル

東日本大震災 6年
野区南蒲生地区は4ヶ所を超える津波被災に遭い、約20人の命が奪われた。同年11月に策定された仙台市の震災復興計画では、南蒲生地区全290にわたり取り戻す活動を現高まつた」と話していた。

(中野春夫) 「久根」などの田園文化を受けて仕事をじたからといふ気持ちが社会科教師ら約30人が耳を傾けた。

会地理部全體(が14日、さいたま市浦和区の県立浦和高等学校で行われた)仙台市内の復興活動に携わる3人の専門家が、また再生の現状や今後の課題を解説。県内高校の不審を解消するために、これまでに貢献した経験をもつ者たちが、自身から貢献活動へ参画する。また、自治会や市、団体、サルベイタードに興味があつたとつ、同校の者は震災直後から密接に1年の入江旭さん(16)は「将軍」。山合平野の原風景里来、自分ら貢献活動へ参画する。

東日本大震災の経験・教訓の共有と、復興の取り組み
移転建の希望世帯が済むまでアーティスティック・センターを設立する
父が消防士、兄が衛生士として、支援内容が異なる住民たち
について考える。ヘルディ・スカッシュ、「震災から9年
仙台市の復興とまちの再生」(県高等学校社会科研究会)



仙台市内の復興の取り組みについて考えるハセリク
イスカッショニ=さいたま市浦和区の県立浦和高校
の推進課総括係長の結果、仙台東部
地域が彦町(44)は、仙台東部
の推進課総括係長の結果を市民ら
に献じていただきたい」と話した。
これからアソブ・サーカーとして、各地区の活性化へ貢
いた両井健司(41)は「復興の
間、地区の復興をサポートし
デザイナーズスクールタウン会社」都市
づくりと感謝した。
いの、仙台市と都市デザ
順調にまち再生が進みられて
いるのは、仙台市と都市デザ